

「第13回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和元年10月28日（月）14:00～16:00

新宿区役所本庁舎6階 第4委員会室

1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	12	宮端 啓介（生涯学習スポーツ課長）
2	金子 和子（区スポーツ推進委員協議会）	13	青山 豊（新宿未来創造財団等担当第二課長）
3	小菅 知三（区レクリエーション協会）	14	井出 修（障害者福祉課長）
4	山田 和男（区町会連合会）	15	高橋 昌弘（地域包括ケア推進課長）
5	太田原 武（区高齢者クラブ連合会）	16	谷川 省一（子ども家庭課長）
6	吉田 律子（区青少年育成委員会）	17	組澤 勝（健康政策課長）
7	本橋 弘康（区小学校PTA連合会）	18	松浦 美紀（健康部 副参事）
8	小泉 美琴（区中学校PTA協議会）	19	依田 治朗（みどり公園課長）
9	河野 利美（スポーツ関連事業者）	20	齊藤 正之（教育調整課長）
10	関口 美緒（公募委員）	21	浅野 祐介（東京2020オリンピック・パラリンピック開催等担当課長）
11	藤原 千里（公募委員）		

欠席者 3名

今泉 清隆（区体育協会）

徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）

小柳 俊彦（新宿未来創造財団）

机上配付資料

資料1 スポーツ環境会議設置要綱

資料2 スポーツ環境会議委員名簿

資料3 区レクリエーション協会からの情報提供「新宿区レクリエーション・フォーラム2019」

資料4 関口委員からの情報提供「留学生の障がい者理解について」

資料5 障害者福祉課からの情報提供「手づくりマーケット in 新宿」

資料6～7 スポーツ関連事業者からの情報提供

「新宿スポーツセンター 定期教室」

「スポーツ指導者講習会」

資料8～12 東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課からの情報提供

「TOKYO 2020 GUIDEBOOK」

「広報新宿 8月5日号」

「東京2020オリンピック・パラリンピック250日前記念イベント」

「新宿2020サポーター 大募集！」

「ラグビーワールドカップ2019 パブリックビューイング」

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

本日はお忙しい中、第13回スポーツ環境会議にご出席いただき、感謝申し上げます。

私ども生涯学習スポーツ課では、平成25年2月に策定した新宿区スポーツ環境整備方針の着実な推進に向け、区民の皆さんのスポーツ機会の拡充や健康寿命の延伸のためのスポーツの推進、スポーツコミュニティの醸成等の事業を行っている。皆さんには日頃より新宿のスポーツ推進にご尽力いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。

このスポーツ環境会議は、スポーツ環境整備方針の実現に向け、現状の確認や各団体等の取り組み状況の意見交換をさせていただき、スポーツ環境整備に向けての着実な推進体制を検討していくために開催している。今回初めての出席となる委員の方もおられると思うが、是非忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をいよいよ来年に控えているが、この会議での意見を参考にさせていただき、大会後のレガシーやスポーツを通じた地域コミュニティの活性化などにも取り組んでいきたいと考えているので、皆様のご協力をお願いしたい。

(3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

(4) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・区レクリエーション協会

<資料3>をご覧ください。生涯学習スポーツ課長からもあったように、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後のレガシーという点を考え、障害者にスポーツを届ける具体的な方策を話し合うフォーラムを、11月9日（土）に新宿コズミックセンターで開催する。このフォーラムでは、<資料3>裏面のとおり、障害者の疑似体験という新しい試みをする。また、基調提言では、東京都障害者スポーツ協会の大友氏より、障害者のスポーツ推進の受け入れ体制のあり方について講義いただく。そして、スポーツ推進委員の方々のご協力のもと、障害者が気軽に参加できるような展開方法を検討するため、ニュースポーツを実際に体験していただく。その後、日本レクリエーション協会前理事の宇田川氏に提言集約をしていただくという画期的な内容となっているので、是非皆さんにご来場いただきたい。

・区町会連合会

町会連合会ではスポーツ行事やスポーツ企画があまり無いため、コミュニティスポーツ大会に協力させていただいている。ご存知の方も多いと思うが、ボッチャがコミュニティスポーツ大会中央大会の正式種目になったため、小学校などでは盛んに行われており、地区大会では子どもたちのチ

ームや親子のチームが 7～8 チームほどが参加したようである。しかしながら、地域の町会ではボッチャはまだ馴染みが薄いようで、1～2 チームほどの参加となっている。今後もボッチャが広がっていくことを期待する。

地域の運動会では、今年は台風等で天候が非常に悪く、週末に雨天が多かった。特に、毎年大きな規模で開催している落合第一地区の運動会が中止となったのはとても残念である。

・区高齢者クラブ連合会

当会は、昨年はグラウンドゴルフ及び輪投げをメインに実施していたが、今年からボッチャを取り入れた。コズミックセンターで開催されるコミュニティスポーツ大会に向けて、高齢者クラブも練習を重ねていきたい。四谷、牛込、淀橋、戸塚、落合と 5 地区あるが、2 月に開催する地区対抗の大会に向けて各地区とも精一杯取り組んでいる。

・区青少年育成委員会

当会では、全地区がコミュニティスポーツ大会の地区大会に協力させていただいている。また、地域によってサッカー大会やスケート教室なども実施しており、私が所属している早稲田地区では、11 月にドッジボール大会の開催を予定している。また、いくつかの中学校では、行事の度にボッチャ体験を取り入れている。

・小学校 PTA 連合会

区内小・中学校の体育館に空調設備の導入が進んでいる。熱中症等の懸念事項が解消され、とてもありがたい。一方、屋外にプールがある小・中学校に関しては、猛暑により、プール授業が中止になったケースが多かった。

・中学校 PTA 協議会

中学生は多くの生徒が部活動または地域や外部のクラブに所属し、スポーツ活動に励んでいる。区立のどの中学校に進学しても同様の部活動ができるよう、教育委員会にはお願いしているところである。

・スポーツ関連事業者代表

新宿スポーツセンターは、昨年度に館内の大規模修繕工事を終えた。4 月より大・小体育室では輻射式パネルによる冷暖房設備が、第一・第二武道場では通常の冷暖房設備が、それぞれ稼働しており、利用者の皆様には大変好評をいただいている。この大規模修繕工事による長期休館があったため、利用者離れが年度当初にはあったが、現在は昨年度と同水準の利用者数に回復してきている。

新宿スポーツセンターでのイベントとしては、＜資料 6＞のとおり、9 月 23 日（月）に毎年恒例の新宿スポセン祭りを開催し、2,643 名の方に楽しんでいただいた。その中のイベントとして、新宿区でも活動されている、アテネオリンピック 4×400m リレー 4 位入賞の伊藤友広氏をお招きし、幼児と小学生を対象に「かけっこ教室」を実施した。運動会前の時期ということもあり、参加者には大変好評であった。また、＜資料 7＞のとおり、9 月 30 日（月）にスポーツ指導者講習会を開催し、体力測定の種目や実施方法について座学と実技を交えた講習を実施した。スポーツ推進委員の

皆様にも多数ご参加いただき、感謝申し上げます。

今後は、引き続き子ども向けの教室やイベントの充実を図ることや、中・高齢者の方も気軽に参加できるような企画をスタッフみんなで考えていきたいと考えている。

・関口委員

仕事柄外国人と接する機会が多いため、今回も外国人留学生を対象に意識調査を行った。

前回までは外国人留学生がどのようなスポーツに興味を持っているかを調査したが、私自身が藤原委員に大きな影響を受け、障害者理解について興味を持ったため、今回は障害者及びパラリンピックの理解について調査した。

私は、障害者理解について大切なことは、一般の人たちや身近な人たちに対して障害者の方々の立場を周知していくことであると考えているため、そのことを紹介させていただくべく、今回調査をした次第である。今回はデータが少ないが、次回は 20 名以上のデータは集めたいと考えている。

<資料 4>をご覧いただきたい。実際に外国人留学生に話を聞いてみると、パラリンピックの存在自体を知らなかった学生がいたことにとっても驚いた。

・藤原委員

重症心身障害者のスポーツ環境の改善について取り組んでいる。以前の会議でも少々お話しさせていただいたが、障害のある方が小・中・高の各学校教育で 12 年間経験した体育を、学校卒業後も継続してスポーツに取り組めるような環境が、現在不足していると感じている。そこで、この会議でも少しずつご報告をさせていただいているが、卒業後もスポーツに取り組める環境として、同好会のような形式のスポーツクラブを立ち上げたところである。

新宿養護学校では昨年、部活動で初めてのスポーツ部が設立された。在校生と卒業生の混成チームを 1 チーム結成することができ、ハンドサッカーの大会に出場することができたが、卒業生のみでチームを結成し大会に出場するといったところまでは環境が整っておらず、練習場所や指導者の確保等が難しい状況となっている。特に指導者に関しては、ボランティアのような形でやっていただいております。地域の方々に支えられている現状である。

オリンピック・パラリンピックの開催も近いためか、様々な場所で様々な競技の体験会が開催されているが、スポーツに取り組める環境の整備については、オリンピック・パラリンピック終了後も必要不可欠であるにも関わらず、あまり着手されていない部分ではないだろうか。各課の垣根を越え、そういったところにも目を向けていただければと思う。

・スポーツ推進委員協議会

現在、コミュニティスポーツ大会の地区大会が毎週日曜日に各地で開催されている。我々スポーツ推進委員は、12 月までの毎週日曜日の全 10 地区の地区大会を手分けして運営のサポートにあたっている。昨日は大久保地区で地区大会があり、幼稚園入園前の小さなお子様から高齢者まで 200 名以上の方々にご会場いただいた。昔から住んでいる方もたくさん輪投げに参加してくださり、ほのぼのとした雰囲気の良い地区大会となった。

また、園児と保護者の方々にボッチャを体験していただく「親子 de ボッチャ」を幼稚園及び子ども園で実施している。各園でボッチャのボールに触れたことがある園児たちが、スポレクやレガ

スマ祭り等でポッチャを見るとブースに走って来てくれることがある。そんな光景を見ると、普及の効果を実感する。

さらに、レガスマ祭りや各地域センター祭り等では、体力測定をサポートにもあたっている。体力測定についてはあまり勉強する機会がなかったが、先ほど河野館長がお話しされた〈資料7〉のスポーツ指導者講習会には多くのスポーツ推進委員が参加し、勉強させていただいた。得た知識を今後も様々なイベントで活用していきたいと思う。

・間野委員

この会議には平成25年から出席しており、その前の指針作りも含めると約8年間関わらせていただいている。他自治体の会議に参加する機会も多いが、新宿区のようにこれだけ多くの関係各課長が出席している会議は非常に珍しい。区全体で横断的に取り組もうという姿勢の顕れであり、大変素晴らしいことだと思うが、実際にそれをどう実現していくかが重要である。

現在ラグビーワールドカップが非常に盛り上がっている。11月2日(土)の決勝戦でラグビーワールドカップは終了するが、これが終わると約8か月後にはいよいよオリンピックの開会となる。東京にはたくさんの観光客がやって来ると思われるが、障害者の方も含めて様々な人が様々なことをやっているこの新宿というまちは、東京の縮図であると思う。新宿区は日本のダイバーシティを代表する基礎自治体であるので、そこでスポーツやスポーツ環境を通じて区民がどのように幸せになっていくかと考えることは、とても大切なことである。

スポーツ庁の現在の取り組みにシェアリングエコノミーというものがある。これは、ウーバーという配車サービスやAirbnbという民泊サービスに代表される、現在あるものをシェアして上手く活用していこうというもの。これらはスマートフォンのアプリによって非常に便利なものであるが、スポーツ庁はこのシェアリングエコノミーのスポーツ版を構築しようと考えている。新宿区もこれだけの課長が出席してくれているわけだから、例えばアプリ等を作ってみて、障害のある方も小さなお子さんがいる親御さんも小学生も中学生も、何かスポーツしたいと思ったときにアクセスしやすいものを作ることができたらいいのではないだろうか。

部活動については、幾つかの自治体では、教員の働き方改革の一環で、部活動の活動日数や年間試合数を制限している。教員の職場環境の改善が急務であることから、このような部活動の制限に至ったのだが、この部活動を制限する傾向は近い将来、新宿区にもやって来るであろう。この制限は、教員の働き方改革には効果的かもしれないが、子どもたちの余った時間をどう有効に使っていくかは全庁的に考えないといけない問題である。家庭や地域で子どもたちの活動の場や時間を確保する必要があり、目前まで迫っているこの問題について、本日のご出席の関係各課長で知恵を出し合って考えていただきたいと思う。

皆さんからポッチャのお話もたくさん出たが、新宿で新しいスポーツを考案しても面白いのではないだろうか。例えば「ゆるスポーツ」というものがある。「ハンドソープボール」や「手錠バレー」、「いもむしラグビー」といった、ちょっとふざけているけど思わず笑ってしまうような新しいスポーツのことだ。一方で、ハイテクノロジーなサイボーグスーツを纏って行う「超人スポーツ」というものもある。また、現在様々な議論があるが、「eスポーツ」というものもある。「eスポーツ」は、世界の競技人口が1億3,000万人にも及び、今年の茨城国体では都道府県別対抗戦も行われた。これまでの伝統的なスポーツも大事だが、新宿という環境の中で一番楽しみやすい新宿発の

スポーツを小学生や中学生と一緒に考えてみてもいい時代なのではないだろうか。時代はどんどん変わっていくのである。新しいものや時代の流行をしっかりと追っていくことが大切であり、それができるのが新宿である。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

当課では、オリンピック・パラリンピックの気運醸成を図るため、7月に「スポーツを科学する」というイベントを実施した。これまでも様々なスポーツの体験イベントを開催してきたが、これまでとは少し視点を変え、区民の皆さんにスポーツの「見る」楽しみも知っていただくため、展示を中心としたイベントとした。スポーツに関する展示だけでなく、クイズに答えて記念品をもらうクイズラリーなど、様々な企画を行い、2日間に渡る実施で1,000名を超える参加があり、盛況であった。

ボッチャに関する取り組みとしては、日本ボッチャ協会と共催で「審判員養成講座」及び「指導員養成講座」を開催し、区内の施設の指定管理者や多くのスポーツ推進委員にもご参加いただいた。コミュニティスポーツ大会の地区大会等でボッチャの試合の企画・運営ができる人材の育成を目的に、身につけた技術を色々な地域やイベントで発揮して頂けるよう、スポーツの裾野を広げていく取り組みは今後も続けていく。

・新宿未来創造財団

新宿未来創造財団のスポーツに関する取り組みについて、5点ほどご報告させていただく。

1点目は、現在開催中の区内最大のスポーツ大会「区民総合体育大会」である。6月から来年3月にかけて、50種近い競技を開催している。台風の影響により一部中止となった競技もあるが、順調に実施しているところである。

2点目は、「コミュニティスポーツ大会」である。昨日までに5地区の地区大会が終了し、残り5地区についても順次開催していく。今回よりボッチャが正式種目となる中央大会は、12月8日(日)にコズミックスポーツセンターにて開催予定である。

3点目は、「スポレク2019」である。10月14日(月)に開催予定であったが、台風の影響により中止となった。毎年8,000人ほどが参加し、今年も様々な団体にご参加いただく予定であったが、残念な結果となった。

4点目は、「放課後子どもひろば」である。引き続き体育協会等のご協力をいただき、サッカー教室や卓球教室等の様々な教室を実施している。また、学校でもボッチャを楽しんでもらうため、ボッチャの講座を受講している担当者も多い。ほかにもふうせんバレーやスポーツチャンバラ、シッティングバレー等を各校で工夫を凝らして実施している。

5点目は、「新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン」である。今年度は令和2年1月26日(日)に第18回大会を開催する。一部コース変更があるものの例年通り人気があり、インターネット受付を2日間行ったが、ハーフマラソン部門は両日とも15分程度で定員に達した。令和3年1月実施予定の大会では新国立競技場をスタート・ゴール地点にできるよう、現在調整をしているところである。

最後になるが、現在、新宿コズミックセンターの1階の受付や2階のスペースに、アスリートを

模したパネルとともに、走り高跳びや走り幅跳び、棒高跳びの世界記録を展示している。来館者にアスリートの凄さを実感してもらえればと考え展示してあるので、お立ち寄りの際は是非ご覧いただければと思う。

・障害者福祉課

福祉部の取り組みについて、3点ご案内させていただきます。

1点目は、オリンピック・パラリンピックの気運醸成を目的に、福祉部職員の有志で結成した「パラリンピック・プロジェクトチーム」である。若手職員を中心とした約30名で組織され、オリンピック・パラリンピック関連事業や「ゆる〜くボッチャ大会」をはじめとしたボッチャ関連イベントに、土日祝日を問わず積極的に参加し、気運醸成に努めている。

2点目は、「パラリンピック関連特別講座」である。「東京2020パラリンピックの成功に向けて」をテーマに、講師に公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常任理事、日本パラリンピック委員会副委員長の高橋秀文氏をお迎えして、パラリンピックの歴史や競技の紹介を通じて、パラスポーツの魅力について発信していただく予定である。今週末の11月2日（土）午後2時から4時まで、新宿文化センター3階小ホールにて開催するので、是非ご参加いただきたい。

3点目は、「第14回 新宿区内障害者福祉施設共同バザール・障害者作品展」である。12月第1週が障がい者週間となっており、そのうちの2日間の12月4日（水）及び5日（木）で開催する。＜資料5＞のとおり、「手づくりマーケット in 新宿区」と銘打ち、新宿駅西口広場イベントコーナーにて、区内の福祉作業所27団体が製作したお菓子やハンドメイドアクセサリー等を販売する。ジャズ演奏やダンスパフォーマンスのほか、先ほど申し上げた「パラリンピック・プロジェクトチーム」が中心となったボッチャ体験コーナーを出展する予定である。こちらも是非ご参加いただきたい。

・地域包括ケア推進課

当課では、高齢期の方の介護予防や生きがいづくりといった視点で事業を行っている。

介護予防については、様々な方に身近に感じていただくため、介護予防教室を開催している。その中で、10年前から普及を続け、今年1月には10周年記念イベントを開催した「新宿いきいき体操」については、健康部の「しんじゅく100歳トレーニング」及び「新宿ごっくん体操」とも連携し、3つの体操を同時に普及していくことに力を入れている。今年も定期的に「新宿いきいき体操」のサポーター講習会を開催し、毎回多くの方にご参加いただいているが、今後も区民や地域の皆様の力をお借りして益々普及が進んでいくものと考えている。

また、高齢者の方々に多く使っていただいている施設として、地域交流館15館とシニア活動5館があるが、ある館では、広いスペースに常時ボッチャコートの線が引いてあり、すぐにボッチャができるように準備されている。これにより多くの方々に楽しんでいただいている。ボッチャは障害のある方も無い方も楽しめることが知られているが、高齢期の方においても参加しやすいと好評をいただいている。

当課は高齢者クラブ連合会の支援をさせていただいているが、今後は機会があれば近隣の児童館や小学校等との交流も視野に入れながら、事業に取り組んで参りたい。

・子ども家庭課

当課では、地域、学校、家庭が連携して行う青少年の交流を目的とした文化スポーツ事業への支援として、各地区の青少年育成委員会の活動を支援している。

前回の会議以降から現在に至るまでの取り組みとしては、スキーやダーツ、野球、ウォーキング等 18 の事業が地区青少年育成委員会全 10 地区で実施された。

・健康部

健康部では、「新宿区健康づくり行動計画」に基いて事業を行っている。健康政策課では、その中の「身体活動量の増加と運動・スポーツ活動の習慣化を推進します」という施策について、区民の健康保持と増進を図るための運動機能の定着を目標とする健康推進事業及び地域における健康づくりの支援を目的とした元気館の運営を指定管理者により行っている。

在宅の虚弱高齢者の運動強化を目的としたトレーニング等を実施する事業では、昨年度は延べ 5 万 6 千人を超えるたくさんの方に利用いただき、区民の健康増進の一役を担っていると考えている。

また、ライフステージに応じた健康づくりとして、全ての世代を通じて取り組むことができるウォーキングを推進しており、初心者向けのウォーキング教室の開催や、ウォーキングの楽しさを地域の方に広げていただくウォーキングマスターの養成などを行っている。さらに、区内の様々なウォーキングコースとともに、消費カロリーや休憩スポット等を記載したウォーキングマップを作成し、これまでに 3 万部を発行した。今年度は新たに 1 万部を増刷予定である。

ウォーキングイベントとしては、歩く楽しみを知るきっかけ作りになればと思い、区内の 4 km、8 km、12km の 3 つのコースを歩く「新宿シティウォーク」を年 1 回開催している。今年度は 10 月 26 日（土）に戸山公園やくどうの広場を出発点として開催し、500 名定員のところを 593 名の申込があった。当日は 403 名と少し減ってしまったが、小学生や幼稚園のお子様とその親御さんによるファミリーでの参加が多かった。集計はまだ取れていないが、申し込み段階では小学生が 136 名、4～6 歳のお様が 44 名の申し込みがあった。多世代で一緒に歩くことができるイベントということで今後も普及していきたい。

また、地域包括ケア推進課からもご紹介があったが、ライフステージにおける健康づくりとして、「しんじゅく 100 歳トレーニング」を開発した。このトレーニングは、高齢期の方の筋力低下の予防として、東京都健康長寿医療センターとともに開発した、新宿区オリジナルの筋力トレーニングである。重りを使いながら負荷を徐々に増やしていき、虚弱高齢者から元気な高齢者まで一緒に楽しめる体操となっている。このトレーニングの DVD を作成し、5 名以上のグループにお配りしている。初めに体力測定をし、理学療法士、保健師等の専門職の指導を受け、以降は自主的に取り組んでいただいている。現在 26 グループ、380 名の高齢期の方に取り組んでいただいている。

・みどり公園課

当課の取り組みについて、2 点ほどご案内させていただく。

1 点目は、子どもの遊び場という視点である。新宿区では「みんなで考える身近な公園の整備」という事業を進めている。地域の身近な小さい公園、面積にして 1,000 m²前後の公園を改造する際に、1 年目はまちの皆様と広く意見交換を行い、要望を取り入れながら 2 年目に工事を行うというスケジュールで行っている。昨年は納戸児童遊園の改造を行い、幼児から児童までの年代が楽しめ

る公園、さらに大人の世代も憩える公園となるよう整備した。今年の中落合三丁目にある弥生児童遊園の改造に向け、まちの皆様との意見交換会、ワークショップを9月から始めている。現在様々な地域の要望を拾い上げているところであるが、子どもの遊び場の充実という要望が多い。地域の要望を踏まえて、来年度に改造工事を行う予定である。

2点目は、新宿中央公園の魅力向上である。今年から再来年にかけて、新宿中央公園の大きな整備を行う予定である。現在はその第一弾として、芝生広場付近一帯の工事を行っており、きれいな芝生広場への整備と公園の利便性をさらに高めるためのカフェ・レストランの建築を進めている。オリンピック開催までには完成する予定であるので、楽しみにしていただきたい。

・教育調整課

教育委員会では、今年度から非常勤職員として「部活動指導員」を採用し、顧問教員に代わって部活動の指導や休日等の大会参加の際の引率もできる体制を整えている。顧問教員の人事異動等により継続した部活動が行えないといった意見もいただいていることから、今後は、部活動指導員を中心とした取り組みをさらに展開していきたい。

子どもたちのスポーツへの取り組みとしては、小学校では、「肋木クライミングウォール」と「スラックライン」を新たに導入した。「肋木クライミングウォール」は、東京2020大会から新採用される「スポーツクライミング」を授業の中でも体験できるように、体育館に設置された肋木に、クライミング用プレートを取り付けたものである。「スラックライン」は、張り渡された帯状のラインの上を歩いたり飛び跳ねたりすることで、体幹やバランス感覚を養うものである。

中学校においては、運動の日常化や体力の向上を図る区独自の取り組みとして、「ダブルダッチ」を全校で導入している。これまでは跳躍回数を競っていたが、今後は跳躍しながら表現を競うものも導入し、運動に馴染みがない生徒も気軽に運動に取り組めるようにしていきたいと考えている。

・東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会がいよいよ来年に迫った。大会自体は組織委員会や東京都が主体となって開催するわけだが、新宿区としては、区民の皆さんへ、地元開催をきっかけに大会後も残るような記憶、感動、体験というものを提供していきたいと思い、気運醸成事業を行っている。本日は一例として幾つか資料を配布させていただいた。

まず<資料8>であるが、こちらは大会組織委員会が発行している冊子である。競技日程や会場や聖火リレー等について記載されているので、後ほどご覧いただきたい。

<資料9>は、広報新宿の8月5日号である。「東京2020オリンピック・パラリンピック特集号」であり、表紙はおそらく新国立競技場で走るであろう桐生祥秀選手のインタビュー記事となっている。中面については、大会エンブレムをデザインされ、新宿区出身でもある野老朝雄氏と区長との対談記事が、最終面には新国立競技場及び現在話題のマラソンコースが紹介されている。

<資料10>の「大会250日前記念イベント」であるが、12月1日(日)に落合第二中学校及び落合第三小学校で開催する。前回の「大会500日前記念イベント」は、今年3月3日(日)に西新宿小学校及び旧淀橋第二中学校にて開催し、約2,000名にご来場いただいたが、当日は雨天であったため、校庭での実施予定であった競技体験が中止となった。

<資料11>であるが、今年5月から募集を開始した新宿区独自の制度である。大会に向けた区の

ボランティア制度であり、ボランティアの方には区の事業について運営のサポートを行っていただく予定である。これまで、五輪音頭の講習会やラグビーワールドカップ 2019 パブリックビューイング、三井梨紗子氏に講師を務めていただいたアーティスティックスイミングイベント等でご協力をいただいた。3 回ご参加いただくと記念品を差し上げている。

そして<資料 12>であるが、9 月 20 日(金)に開幕したラグビーワールドカップ 2019 について、パブリックビューイングを新宿区でも実施している。試合は残すところ 11 月 2 日(土)の決勝戦のみであるが、伊勢丹本館屋上で開催中である。先日 10 月 20 日(日)の日本 vs スコットランドの準々決勝の来場者が最も多く、19:15 キックオフの試合だったが、14:30 くらいには入場規制となったほどの大盛況であった。

このほかの区の取り組みとしては、既にご覧になった方もいるかもしれないが、本庁舎及び分庁舎のエレベーターに、オリンピック・パラリンピックの競技種目の紹介イラストをラッピングしている。また、本庁舎 1 階及び分庁舎の壁面、新宿文化センター、新宿コズミックセンター、新宿スポーツセンターにもラッピングを施している。ラッピングには「みんなの歓声、みんなが輝く」というキャッチフレーズが記載されているが、これは昨年、区立中学校の生徒会の役員が集まって考えたものである。「活躍するのは選手たちだが、自分たちも一生懸命応援することで主役として関わっていきたい」という思いが込められている。

今後については、大会本番のパブリックビューイングのイベントを区内でもやっていきたいと考えている。

ウ 各報告を受けての自由意見

・関口委員より

外国人留学生がどのように情報を収集しているかと言えば、間野先生も言われたように、全てスマートフォンのアプリなのである。私は大学のオンラインクラスでも講義をしている関係で、インターネットに係る色々な講習を受講しているが、若い世代の方々や外国人留学生は確実にアプリしか見ていない。貼り紙をしてもほとんど見てもらえない。

アプリにすることによって様々な宣伝をすることができ、将来的にも大きなマーケットになると思われる。では、誰がそのアプリを作るのかという話になるが、アプリの作成はとても大変なことである。個人では難しく、プロの方をお願いすることになるのだろうが、少しずつ進めていかなければ、時代に取り残されてしまうだろう。

・藤原委員より

前回の会議で「新宿ごっくん体操」を紹介して頂いた際、障害児や子ども向けの体操についても検討していただけないかという意見を申し上げた。その会議では、今後積極的に検討する旨のお話をいただいたように思うが、その後どうなっているか。

また、ウォーキングマップが完成した際、この会議で拝見したが、とても素晴らしいもので、やってみようかなと思えるようなものであった。そこに、バリアフリー関連や高齢者向けの障害物等の注意喚起や情報提供の記載も検討してほしい旨をお伝えした。健康増進といった観点からも、健常者だけがウォーキングをするわけではないので、もし今後改定等があった場合は是非、障害者だけではなくベビーカーを使用しているご家族等にも配慮したようなものにしていただきたい。

・金子座長より

先日行われた新宿シティウォークに参加したが、ベビーカーを使用している親子や目の不自由な方もガイドさんとともに参加していた。参加者の輪が少しずつ広がっていると感じた。

・区レクリエーション協会より

先ほど新宿未来創造財団からの発表で、10月14日（月）の「スポレク 2019」が台風の影響により中止となったお話があった。これは仕方のないことだが、毎年8,000人ほどが参加しているこのイベントで、財団では参加者に対してアンケートを実施していた。これは大変素晴らしいことである。そのアンケート結果を先日の協議会で拝見したが、その結果は愕然とするものであった。「初めてスポーツを体験した」という小学生の割合がかなり高いものであり、逆に言うと、小学生は学校ではスポーツを体験していないということだ。

また、特別支援学級や養護学校の現場へは、あまりスポーツというものが届いていないと感じた。これも財団が集めたアンケートにより知ることができたわけだが、学校の立場から言うと、スポーツしたいけどなかなかそこまでできない理由がいくらでもある。新宿区の未来を背負う子どもたちのスポーツの課題については、この会議で掘り下げないといけない。それが我々の責務である。

それから、＜資料3＞について補足説明させていただく。11月9日（土）に開催する「新宿区レクリエーション・フォーラム 2019」では、B4版くらいの紙とストロー2本と10センチほどのセロハンテープを使って、微風でも揚がる、世界に一つだけの凧を作る体験を予定している。微風でも揚がるため車イスに座ったままでも揚げることができる。障害者でも健常者でも自分で作った凧を空に揚げるという経験は、歓喜そのものである。手軽にできる体験であり、間野先生も言われたゆるスポーツのようでもあり、スポーツの参加を身近に感じることができるのではないだろうか。

（5） 各団体の連携について

・金子座長より

この会議によって、健康部の「新宿ごっくん体操」、福祉部の「新宿いきいき体操」及び「しんじゅく100歳トレーニング」の3つの体操を一緒に取り組むという連携を見ることができた。今後これに近いような形で、様々な部署との連携がさらに進んでいくことが望ましい。

例えば、先日、新宿シティウォークがあったが、出発式にはベビーカーを使用している親御さんや杖をついた高齢者の方など、約500人ほどの方がいた。それを見て感じたのは、新宿シティハーフマラソンはあるのに、なぜウォーキングの大規模なイベントはないのだろう。新宿シティハーフマラソンくらいの規模にするのは、一つの部署では無理だろうが、連携や委託により可能ではないだろうか。ウォーキングは手軽にできるスポーツの一つであるため、皆さん、ウォーキングの大規模なイベントがあったらいいとは思わないだろうか。

・健康部より

2017年から始まった新宿シティウォークであるが、初年度は300名の定員で204名の参加、昨年度は300名の定員で226名の参加、今年度は500名の定員で403名の参加であり、年々増加しているところである。来年度は1,000名の定員としたいが、ウォーキングだけではなく、「しんじゅく

100歳トレーニング」をはじめ他にも取り組んでいることがあり、担当者1名でやっているため、これ以上の規模の拡大は一つの課では難しい。障害者や高齢者等、できるだけ様々な立場の方にご参加いただくためにも、様々な部署とも連携できたらと思う。

・金子座長より

来年度1,000名も参加者を集めるためには、本日この会議にご出席の皆さんがまず興味を持って参加し、町会連合会や高齢者クラブ等各団体に持ち帰っていただくことが大切であると思う。各地区を回る新宿シティウォークではあるが、自分が住んでいる地区以外を歩くことで区民であることを実感できるような新宿シティウォークであってほしいと思う。

・小学校PTA連合会より

各地区ではウォーキングをやっているが、区で実施している新宿シティウォークについては、通知は来ているのだろうがあまり認知されていない。こういった会議で周知活動が広がり、参加者が増えることはいいことだと思う。

・中学校PTA協議会より

新宿シティウォークのことは正直知らなかった。いかんせん中学生はプリント類を持って帰って来ない上、多感な時期のため子どもとのコミュニケーション不足もあり、保護者としても情報がキャッチできていなかった。

参加できるかどうかについては、時代背景ともにPTA活動自体でさえ難しくなっている昨今、両親共働きのご家庭は現在8割以上となっており、日々帰宅時間が遅い中で部活動の応援をしたりしているため、現在は難しい。休日は、時間と心に余裕が無い状態であるため、今よりもう少し余裕ができれば参加可能かも知れないが、現状では難しい。

・スポーツ関連事業者より

新宿シティウォークがあることは以前から知っていた。案内チラシも置いており、来館者もご覧いただいていたようだが、参加に結びついているか気にはなっていた。

・関口委員より

外国人の方は計画をあまり立てないで、その日に思いついて動き出すことが多い。その際の情報はほぼスマートフォンのアプリであるため、チラシはほぼ見ないだろう。また、アプリには英語版もあったほうが望ましいだろうし、外国人の方がたくさん参加していればそれを見て日本人の方もたくさん来るだろうし、win-winの関係になり益々大きなイベントになっていくと思われる。

・藤原委員より

この会議に出席していたので、新宿シティウォークは当然知っていたが、重度の障害の人の参加は難しいと感じ、参加までには至っていない。また、小・中・高の学校に通っている子どもにとっては、週末のイベントの参加は体力的に厳しいと思われる。しかし、学校を卒業しており通所施設に通っている方の場合は、余暇活動に参加しやすいと思うので、先ほど申し上げたガイドマップ等

を充実させ、周知方法により障害者の参加も可能である点をもっと伝われば、幅広い参加が見込められると思う。ただ、担当課単体でやるのは難しいと思われるので、様々な課でご協力いただければと思う。

・区青少年育成委員会より

早稲田地区の青少年育成委員会では、榎町地区町会連合会の協力を得て、「のんびり歩こう会」というものを以前から実施している。安全確保のための複数回のコースの下見等、実施にあたってはとにかく事前準備が非常に大変である。これが地区単位ではなく区全体で実施する新宿シティウォークともなれば、事前準備はもっと大変であろう。

「のんびり歩こう会」の参加者については、小学校低学年や乳幼児が多いため、ベビーカーを使用している親御さんも参加されるが、それについては運営において苦労はあまりない。小学校高学年や中学生の参加が非常に少ないため、青少年育成委員会の会議では参加を呼び掛けているが、地域でこの状態なので、大規模な区のシティウォークは身近に感じる事ができず、参加しづらいのではないだろうか。

「のんびり歩こう会」では、既に地域はたくさん回ったので、現在は電車を使って遠方に行ったりしている。区内であれば調べさえしてあれば、それほど大変なことは無い。ただ、金子座長が先ほど言われた通り、こういった会議に代表として出る者は固定されているため、色々なイベントに参加するのは難しい。

・区高齢者クラブ連合会より

当会では歩行部というものがあり、年に2回のバス旅行を実施している。バス到着地点から何キロか歩き、そしてまたバスまで戻ってくるというものであり、買い物の時間もある。楽しんでくれる参加者が多いが、あまり健康目的という感じはしていない。

落合地区では、落合から哲学堂や東中野まで30分ほど歩いて帰ってくるウォーキングをやっており、私自身も朝30分ほどウォーキングをしているため、新宿シティウォークは参加してみたいと思うが、現状では時間が取れない。

・区町会連合会より

新宿シティウォークのことは、ポスターの掲示によって周知も行っているが、中々区民には届いていないと感じている。ウォーキングのイメージが散歩の延長になっているように感じるので、新宿シティハーフマラソンのように参加して楽しいと思えるような魅力の発信ができればいいのではないだろうか。私自身もウォーキングをしているが、やはり楽しいものである。「なぜウォーキングは楽しいのか」と考えると、それは知らない地域や場所を歩いていると多くの発見があり、また、一緒に歩く人たちとの連帯感や会話が楽しいからである。魅力はいっぱいあるのだ。金子座長が言われたように、一回体験すると楽しいのは分かってくれるが、そこに一歩踏み出してもらうことが大変である。参加を呼び掛けても「忙しい」となってしまうので、そこから一歩進んで、行きたくなるような仕組み作りが大切である。例えば、年間の町会行事に新宿シティウォークの参加を組み入れてしまえば、楽しさが伝わると思う。ウォーキングでも注意しなければいけないことはたくさんあるが、マラソンのような交通規制も不要であり、安全性をクリアしながら魅力を発信して

いければいいと思う。

・金子座長より

先日の新宿シティウォークでは、出発地点には色々なブースが出展されていたが、これは一回参加してみないと分からないことだ。新宿シティハーフマラソンの開催当初は、明治公園で舞台をやったり多くのブースが出ていたり、応援に行っても楽しいマラソン大会であった。このように、区民がより楽しめるようなウォーキングイベントになれば、素晴らしいことだと思う。

より大きなウォーキングイベントになることで、スポンサーも付き、より多くのブースの出展も期待できるが、大きなイベントにしないとスポンサーが付かない。また、大きなイベントにするためには一つの部署の力だけでは難しい。様々な部署の連携によって、こういった大きなものを作り上げていくのもスポーツの魅力の一つではないだろうか。

4 行政からの連絡について

次回のスポーツ環境会議の実施日程、内容等は未定のため、決定次第お知らせする。